

特別活動

各活動の特質を踏まえた児童生徒の自主的、実践的活動の充実を図る授業づくり

授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

学級活動(1)

- ① 必要感のある議題を学級全員で決定できるよう、日頃から様々な関わりの中で、よりよい学級・学校生活づくりへの児童生徒の問題意識を喚起する。
- ② よりよい合意形成が図られるよう、意見の背景にある思いや願いを共有しながら多様な意見のよさを生かして話し合うための手立てを工夫するとともに、発達の段階に応じた指導を行う。
- ③ 決めたことを協働して実践し、その成果や課題を実感できるよう、事後の活動の充実を図るとともに、振り返りを行って、その内容や実践の様子を学級全員で共有し、次の課題解決に結び付ける。

学級活動(2)(3)

- ① 児童が題材を自分事として捉え、問題意識を高めることができるよう、アンケートや資料等を活用する。
- ② 自分に合った具体的な実践目標や解決方法を意思決定できるよう、学級での話し合いに加え、教師からの情報提供やアドバイスを生かして、自分の考えを広げたり、自己の課題について多面的・多角的に考えたりする場面を設定する。
- ③ 決めたことを粘り強く実践し、現在や将来の生活について意識することができるよう、定期的に振り返りの時間を設定し、実践状況を確認し合ったり、目標の見直しを図ったりする。

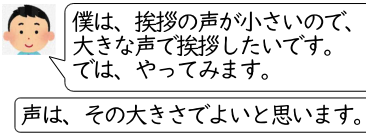
自己の生活をよりよくしていくための資質・能力の育成に向けた学習の例

小学校第1学年 題材名「気もちのよいあいさつ」

学級活動(2)ア 基本的な生活習慣の形成

◇本時のねらい 日常生活を振り返り、挨拶の大切さに気づき、気持ちのよい挨拶をすることができるようになる。

学級活動(2)においては、児童の実態や発達の段階を踏まえて、指導内容の重点化を図り、学年間の系統性を考慮して年間指導計画を作成する必要があります。学級活動(3)においても同様です。

問題の発見・確認	児童の活動		指導上の留意点(○)と評価(◇)
	事前	本時	
解決方法等の話し合い	・日頃、自分が誰に、どのような挨拶をしているかを振り返り、挨拶アンケートに答える。	1 アンケート結果や自分たちの挨拶の映像を見て、気付いたことを発表する。 2 上級生の挨拶の映像を見て、「気もちのよいあいさつ」とは、どのような挨拶か話し合う。 S1: 大きな声で挨拶しています。 S2: それだけでなく、相手が笑顔になるような挨拶をしています。 T: それは、どんな挨拶ですか。 S3: 相手の顔を見て挨拶しています。 S4: 自分から挨拶しています。	◇題材への関心を高め、学習への見通しをもとうとしている。 【主体的態度】(挨拶アンケート) ○学級全体の課題を確認した上で、自己の課題にも気付けるようにする。 ○自分たちの挨拶と比べて、どのような点が違うのか、どうしたら上級生のように挨拶できるのかを考えられるようにする。 ○グループや学級全体での話し合いを通して、多様な方法を出し合い、めあてを決める際の参考になるようにする。 ○実際の場面を想定して試行し、自分に合っためあてを決められるようにする。
解決方法の決定		3 めあてにしたいことを試行し、お互いにアドバイスし合う。  僕は、挨拶の声が小さいので、大きな声で挨拶したいです。では、やってみます。 声は、その大きさがよいと思います。 4 自分のめあてを決める。 <がんばりカード> ◎めあてをかきましょう。 あい手のかおを見て、大きなこえてあいさつする。 ◎できた日にいろをぬりましょう。 9/8☆ 9☆ 10☆ 11☆ 12☆	◇話し合ったことや他からのアドバイスを生かし、挨拶の仕方について、自分の課題に合った具体的なめあてを決めている。【思考・判断・表現】(発言、がんばりカード)
決めたことの実践 振り返り		・意思決定したことを実践し、振り返りをする。 ・友達同士で実践状況を確認し合う。  恥ずかしくて、顔を見て挨拶できませんでした。 声の大きさは、前よりよくなったと思います。	◇自分が決めためあてに進んで取り組んでいる。【主体的態度】(観察、がんばりカード) 顔を見て挨拶するのは、恥ずかしいし、緊張もしますよね。でも、顔を上げると、相手の笑顔が見えて、あなたもうれしい気持ちになりますよ。
次の課題解決へ			

1人1台端末等を活用して、事前に題材の提示やアンケートを行い、児童が学習への関心を高められるようにします。①

自己の課題に気付かせることで、児童が主体的に話し合いに参加できるようにします。①

児童が生活経験や発想の違いを生かしながら話し合い、考えを広げることができるよう、十分な話し合いの時間を設定します。②

題材により、他の教師等の専門性を生かしたチーム・ティーチング(TT)を行う場合は、T2の役割や指導内容、時間等について事前に十分な打合せを行い、指導の効果を高めるようにします。②

課題の解決に向けて、「何を」「どのように」など、具体的にめあてを決めることで、児童が現状を自己評価できるようにします。②

実践結果だけでなく、積極的に取り組もうとする姿や進歩の状況の評価することが大切です。成果が実感できずにいる児童には、寄り添いながら助言や支援を行い、実践への意欲を高められるよう励まします。③